

大阪大学図書館報

Vol.33 No.3/4 Mar. 2000 (平成 12 年) 通巻 135 号

目次

- 上海紀行 ー変貌する人と街と大学ー
- 地域に根ざした大学図書館の実現を ー開放型図書館機能の整備ー
- 豊中地区の平成 12 年度の図書館サービスについて
- 図書館職員講習会開催
- 教官著作寄贈図書
- お知らせ
 - ・平成 11 年度人文科学系特別図書、高額参考図書の購入について
- 会議・日誌

上海紀行 ー変貌する人と街と大学ー

池田 功

上海から無錫に向かう車窓からは、たわわに稔った稲の穂波とあちこちで米の取り入れをする農夫ののんびりとした風景が目の届くかぎり何処までも続いていた。かつては二期作であったそうで、阿片戦争の前は世界の総生産の三分の一を中国が占めていたということが頷ける風情である。現在、上海辺りの米作はその味を優先して年に一度の収穫しかしないそうである。それだけ生産性が向上し生活に余裕ができてい

るのだ。
だがよく見ると、この風景は所々で不連続性を見せる。殆どがうねうねと曲がった畦道と 1 枚

当たり狭い田圃の続く中で区画の違ったところが時々見られ、そこではコンバインが動いていた。また、杭州に移動する列車からは、これまたコントラストの大変強い景色が見られる。田圃の中に古びた農家が数軒ずつひっそりと建っているという田園風景が続いた後、杭州近くになるとまるでお伽噺のお城のような家並みが続きだした。いわゆる近郊農家で、その金持振りを誇っているのであろう。

上海市内はというと、わが国でもテレビなどでよく紹介されているとおり、郊外に向かってまっすぐに伸びる幅の広い道路と大規模なイン

ターチェンジは、わが国のものと比較するとそのスケールでやや趣が違うようである。また、2千棟を越える20階あるいはそれ以上の高層ビルがこの10年余りの短期間で建設され、今も大きなクレーンが空中高くあちこちで動いている。特に、市の中央を流れる黄浦江の東岸は経済開発区として、この9月にオープンした世界第3位の高さを誇る金茂大廈（ビル）を取り囲むようにこれらが密集して立ち並んでいる。西岸には今世紀初頭欧米人によって建てられた石造りのビル街が今は銀行群として威容を誇っており、前を流れる黄浦江に映る美しくも重厚な姿やそのライトアップされた夜景は林立する摩天楼とともに中国の人々に自信を漲らせるのに十分であろう。

しかしその広いまっすぐの道路も郊外に出るとすぐ側に殆ど手入れのされていない古い農家があったり、高層ビル群の裏側には古びて汚れた感じの民家が軒を連ねている。表通りも、ぴかぴかに磨き上げられた大型乗用車が走っているその前を錆だらけの自転車が横切っていたり、天秤棒を担いだ女性がさらにその前を小走りに駆け抜けたりする光景も珍しくはない。上海とその周辺では、13年前に訪れた時には感じられなかった景色のアンバランスが強烈に目に付く。兎に角、全てのものが両極端の様相を呈しているようで、完全変態の昆虫がまさに皮を脱ぎつつあるという状態に例えられるのではないだろうか。変革が、大きなギャップを一気に乗り越えるという不連続的な性格のものに見えるからだ。

発展の過程を一瞬、それも垣間見ただけではあるが、何年か後にもう一度訪れて脱皮し終わった姿を是非見たいと思わせる、そのような街の多様性である。

改革開放政策で街に大きな変化がもたらされているのは、地域的に見て中国全体のどの程度なのだろうか。上海から汽車で2時間ほどのところにある無錫では、道路が一部広くなったこ

と、それに新しいビルが建設されたことなどなど変化はあるが、13年前の街の佇まいを思い出すのにそれほど苦勞はいらない。かつて1ヶ月近く滞在した時の懐かしい面影が至る所にあった。しかしここも今は何かが変わっている。大学の門前には、以前にも古本屋と食べ物屋の夜店が並んでいて、自分の少年の頃の思い出と重なって何かほっとするような気がしたものであるが、今は路上に広げられた古本屋のビニールシートの上に映画スターのポスターや危なっかしい本が堂々と並んでいたりする。ネオンサインも怪しげな1軒の飲み屋も発見した。女性が大変おしゃれになっており、大阪に来て目立つような見目麗しき淑女は大勢見られる。

街の様子の変わりようは上海の大きな変化とは比べようもないが、人々の気持ちや暮しぶりはこちらでも明らかに以前とはいちじるしく変わっている。

13年前と全く変わっていないという印象のものがある。それは学生達の勉強態度である。

中国の大学は全て全寮制で、キャンパス内あるいはその近くに寮が完備している。寮では学生達は一つの部屋を4～5人でシェアしており、休日あるいは放課後、ルームメイトと楽しい時間を過ごすこともある。しかし、勉強となると事情は違う。即ち、6時過ぎになると校門はその日3度目のラッシュを迎える。全学生のうちのどれだけかは知る由もないが、夕食を終えた学生達が、開放されている教室で自習をするというのである。これは前に訪れたときもそうであった。9時過ぎに行ってもキャンパスは明かりの点いた教室で不夜城である。上海交通大学と無錫輕工大学の、それも2、3の教室を覗いてみただけではあるが、教室では席を立てて会話をする者も居眠りをする者も皆無である。規則があるからか自主的かは知らないが、そのような雰囲気になっているのであろう。以前訪問したときと違って街も教室も随分明るく、電力事情が大きく改善されている。その恩恵を受けてよ

い環境で気の済むまで勉学に勤しんでいるようである。また、普及が十分でないパソコンを学生達が時間極めで借りる「1時間10元」という看板の出ている店が目についたが、何処も数台のパソコンを並べた小さな店ではあるが何時見てもほぼ満席の様子であった。

13年前と違って、全てのことに競争原理が持ち込まれ始めた現在、敏感な学生達が「競争」ということを意識していないはずはない。まして、上海あたりのベンチャー企業に勤めると月収は、学部卒で2000~3000、修士で3000~4000、博士で7000~8000元ということがあからさまに言われているし、大学の教官も研究業績次第で数百パーセントも上乘せされた給与を得る例もあると取り沙汰されている。したがって、学生達の勉学態度は傍目には変わらなくとも、その意欲は当然大きく変わってきていよう。筆者の専門である有機化学などの分野で、極く最近になって中国人名の報文が質・量とも世界的に大変目立ってきていることはその現れであろう。

この勤勉な学生達を見ていると、かつて世界の三分の一の総生産を誇った中国が、近い将来、生産性だけでなく学術・研究の面でもどれだけの力を発揮するか、目に見えるようである。

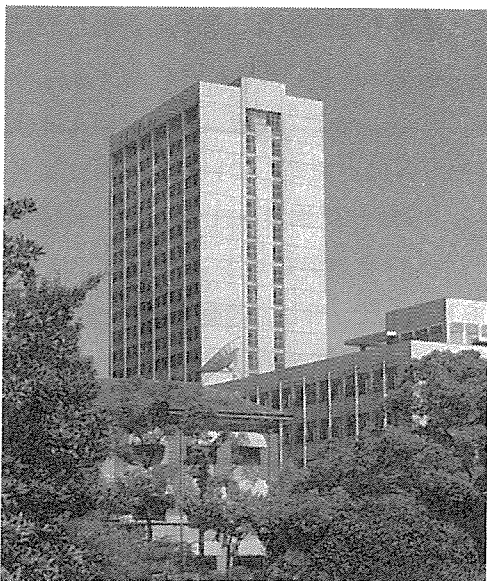
次に、今回その招待所にも何泊かした上海交通大学とその図書館について紹介したい。上海交通大学は1896年に南洋公学として創設され、ちょうど100年の歴史をもつ。1922年に交通部南洋大学(Nan Yang University of the Communications Ministry)となって大きく発展したが、ソ連の影響の下1949年に工学系だけの単科大学的な性格になった。1980年代ソ連との関係が薄れたこともあって再び総合大学上海交通大学となっている。近年中国政府は、実力のある大学に十分な財政支援を行うことで国の科学技術振興を図るという「重点大学」政策をとっている。上海交通大学はその中でも特別の数少ない最重点大学の一つに選ばれてさらに大き

く発展しようとしている。江泽民国家主席は1947年の卒業生で、精神的にも力強い後楯になっている様子だ。数年前に建設が始まった4番目のキャンパス(Minhang(閔行) Campus, 105万平米)を合わせて150万平米の広さを有し、15の学部、1200名の教授・助教授陣を擁している。2000年には1200名の博士課程学生、2000名の修士課程学生、11300名の学部学生、300名の留学生、それに3000名の社会人教育が対象の学生の規模になる。

上海交通大学は規模、教育・研究活動だけでなく大商業都市にあることなど中国における役割が、わが国における大阪大学と大変よく似た状況にある。因に、大阪大学は上海交通大学と大学間交流協定を結んでいる。上海交通大学図書館は1919年に創設されている。当時の建物はヨーロッパ風の美しいレンガ造り(延床面積2700平米)で、今は記念館として修復・保存されておりキャンパスの風景に溶け込んでいる。現在は、最近加わった農学部の図書館とXuhui(徐匯) CampusにあるPao Sui-Loong(包兆龍) Library(写真参照)とMinhang CampusにあるPao Yue-Kong(包玉剛) Library(写真参照)の3館からなっている。合わせると4万3千平米の床面積、200万冊を越える蔵書と4800種の雑誌(1980年以降の図書目録は全て電子化が完了)、閲覧席4300席、土曜日・日曜日も関係なく7時半から22時まで1日14時間半の開館時間、学外者にも開放されているという3百数十台の圧倒されそうな端末の列、博士後期課程の全学生に必修として課せられている情報検索演習のための専用の部屋と数十台の端末、44種類のデータベース、などなど国の最重点大学の図書館として素晴らしい設備が揃っている。利用者数は1日平均8000人である。

Pao Sui-Loong Libraryには数年前訪問された天皇皇后両陛下から贈られたという百科事典がその案内とともに大切に専用の書架に並べられており、筆者にもわざわざその経緯を話してくれた。

農学部図書館を除く二つの図書館は合計4万平米の広大さであるが、これは香港にある大きな海運会社を率いる Pao Yue-Kong 氏が、上海交通大学出身である先代の偉業を顕彰しようと個人で寄贈したもので、それぞれ父と本人の名前がつけられている。アメリカでも耳にしたことであるが、事業に成功した卒業生が大きな施設を母校に寄付することは中国でも珍しいことではないらしく、例えば、Xuhui Campus 入り口付近に聳えている25階建の浩然高科技大厦はアメリカで成功した卒業生、殷之浩氏が2年前

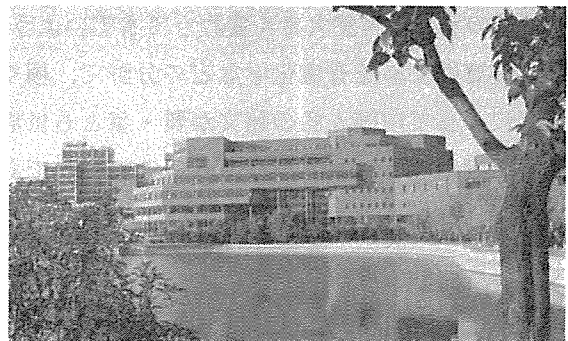


高中低層数棟からなる包兆龍図書館

に寄贈したものである。下の3階は会議室や大学の管理事務用、その上は電子工学や情報工学用の研究室、最上部数階は外国の大企業やベンチャー企業に研究室あるいは事務室として賃貸し、得られる収入は維持管理用に役立てるといふ中国人の商才をにのせるものである。江沢民国家主席が表札や標語を揮毫している学術活動中心（センター）は、小型の国際会議が開催できるようホール、中型の講演室、10室ほどの会議室、30室ほどの宿泊室、それに食堂が備わっているが、これも香港在住の卒業生によるものである。また、趣は異なるが、Minhang Campus の入り口近くに立つ大きな講堂の入った建物は昭和女子大学の寄贈によるものである。

大学のパンフレットにも Alma Mater という語がよく見られ、卒業生が出身校を誇りに思い、また非常に大切にその発展を願っている様子がよく伺える。

上海とその付近は中国の改革の波の最も高いところで、街も大学も人も劇的な変化を成功裏に経験しつつあるということは、訪問前から認識していたつもりであるが、まさに百聞は一見に如かず、想像以上のものであった。わが国も、外見的にはいざ知らず、あらゆるところで中国に劣らないほどの大きな波を被りつつあることは万人の意識しているところであろう。改めて強くそのことに想いを巡らさざるを得ない旬日であった。



大きな人工池の前に立つ包玉剛図書館

筆を擱くにあたり、今回中国にご招待いただき、また本記事を書くための情報を種々ご提供いただいた全国政治協商委員会委員（参議院議員に相当）・上海交通大学教授黄德音氏ならびに同じく情報をご提供いただいた上海交通大学図書館館長・教授陳兆能氏に心からお礼を申しあげる。

（いけだ いさお 工学研究科教授・吹田分館長）

地域に根ざした大学図書館の実現を

－開放型図書館機能の整備－

渡 邊 正 人

新しい幕開けである西暦 2000 年という、この大きな節目の年を 20 世紀最後の年としてとらえますと、いささか感傷的になってしまいそうですが、21 世紀に羽ばたくための年と考えると、未来への夢膨らむ年にできそうに思われますし、是非そうしたいものです。

さて、私はこの 3 月をもって定年を迎えることになりましたが、昭和 39 年に島根大学に採用されて以来、福井医科大学・名古屋大学・岡山大学・大阪大学・岐阜大学・山口大学そして再度の大阪大学を経験して間もなく 36 年になります。

この間、実に 7 つの大学図書館で勤務できたことと、このなかで得たものは私にとって掛け替えのない貴重な財産です。

特に、大阪大学に 2 度に亘って勤務させて頂けたことはとても幸運なことでした。通算して 3 年ですので、決して永い期間ではありませんが、最後の締めくくりを大阪大学で迎えることができましたことを大変光榮に思っています。

とりわけ赴任して早々、平成 10 年度補正予算で永年の悲願ともいべき図書館の新館が認められ現在の建物と同規模 (9,430 m²) の新館が間もなく竣工の運びとなりましたが、この様な大事業に巡り合えることは滅多に無いことで図書館職員として最高の喜びです。

ここに至るまでの間、新図書館実現に向けてご尽力賜りました総長始め関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

新図書館の全体計画は 3 期で完成する事になっていますが、完成時には基本構想としての 7 つの機能が整備されます。この度の第 1 期建築のなかでも、それらの機能を出来る限り整備するための努力をしています。 即ち、

1. マルチメディア・ライブラリー機能の整備
2. 研究図書館機能の強化
3. 共通教育の積極的支援
4. ドキュメント・デリバリー機能の整備
5. 計画的な蔵書構築に基づく資料提供機能の充実
6. 保存図書館機能の整備
7. 開放型図書館の整備

であります。

この 7 つの機能はいずれも重要であることに変わりはないのですが、ここでは「開放型図書館機能の整備」について私が日頃感じていることを述べさせていただきます。

開放型図書館機能としましては、生涯学習社会に対応して一般市民へのサービスの充実、国際化・国際交流による外国人利用者へのサービス、更には障害者にやさしい施設・設備の整備等を考えられています。

障害者にやさしい施設・設備の整備は、一部の特別な人に対する配慮という考え方ではなく、誰にとっても便利で利用しやすい施設・設備であるという精神が無ければ実現できるものではないことを、この度の建築でも痛感しています。

それでは一般市民へのサービスの充実について重点的に考えてみることにしたいと思います。

大阪大学では「地域に生き世界に伸びる」をキャッチフレーズにした大学運営が進められています。図書館も当然大学の運営方針にそったサービスを展開していかなければならないことは言うまでも無いことです。

図書館では、従来から市民へのサービスとしては館内での資料の閲覧とコピーは行っていますが、しかし最も期待されているサービスは図書資料の貸出しです。このことは、生涯学習社会における大学図書館に対する期待の表れであ

ることを、図書館職員としても充分認識するべき時期にきていると思われます。

これまで私が勤務した大学で、市民に図書資料の貸出しを実施しているところは、地域に貢献する大学図書館、地域に開かれた大学図書館を目指したサービスの一環として図書資料の貸出しが行われていました。

国立大学の在り方が問われて、大きく変化しようとしています。大学図書館が真に地域から信頼され、地域にとって必要とされていくための第一歩として、図書資料の貸出しは不可欠と考えています。

これまでの経験から、市民から期待されているのは、少なくとも公共図書館と同様の資料ではなく、大学特有の専門的資料であるのが実情です。目的意識を持って大学図書館の利用を希望される市民にもっとオープンにする必要があります。

国立大学図書館で、学外者に図書資料の貸出

しを行っているところは既に30大学を超えています。しかも、それらの大学における貸出しサービスが運営上特に問題になってはいないのが実情です。

後れ馳せながら、本学でも市民への図書資料の貸出しに向けて検討を進めており、貸出しを実施している大学に職員を派遣するなどして調査を進めているところです。

唯、現在は新館完成とオープンに当たっての諸作業に全力をあげているため、12年度には体制作りが間に合いそうにありませんが、可能な限り早く市民への図書資料貸出しができるようにしたいと考えて計画しているところです。

このサービスを実施するに当たっては、全学のご理解とご支援を頂きますようお願いいたします。

大阪大学を去るに当たって、大阪大学図書館が地域に根ざした大学図書館として更なる発展を遂げることを心から願っている次第です。

(わたなべ まさと 附属図書館事務部長)

平成 12 年度の豊中地区の図書館サービスについて

これまでたびたびお知らせしてきましたように、昨年3月から行われてきた本館新館の建設工事は間もなく完了します。附属図書館では新館のオープンに合わせて、これまで本館と理学部・基礎工学部図書室に分かれて行ってきた図書館サービスを本館に統合することを計画しています。また、各種利用者サービスの拡大も合わせて実施していく予定です。

以下、平成12年度の豊中地区の図書館サービスについて説明します。

・新館オープンに向けての予定

- 3月末 現在建設中の新館が完成します。長い間キャンパス内の方々にご不便をおかけしてきた図書館の工事用フェンスも撤去されます。
- 4～7月 館内に設置する書架・設備・調度類の購入手続、移転作業の準備を行います。豊中地区の図書館サービスは、暫定体制で行います。
- 7月末 書架・設備・調度類が搬入・設置されます。
- 8月 資料の移転作業を行います。この間、かなりの日数にわたって本館を臨時閉館することになります。詳細については、決まり次第広報します。

9月 新館がオープンし、サービスを開始します。

上記は現時点での予定ですので、事情により時期が変動することもあり得ます。

・暫定期間（4月～新館オープンまで）の本館のサービス

本館では4月より事務部門でいくつかの業務を統合しますが、利用者サービスについては、基本的に11年度と同様に実施します。なお、上記のように、移転作業に伴う閉館期間があります。

なお、かねてより要望の多かった日曜開館について、4月より試行として実施することを計画中です。

・理学部・基礎工学部の図書館サービス

新館オープン後は、現在の理学部・基礎工学部の図書室としての機能は全て本館に統合します。ただ、理学部では「理学研究科情報資料室（仮称）」を設置して、図書館とは別組織で運営する予定になっています。また、新館オープンまでの期間は、暫定的に従来のサービスが続行される予定です。

	暫定期間（新館オープン前）	新館オープン後
理学部研究科情報資料室（仮称） （理学部図書室）	閲覧・貸出・文献複写・相互利用業務を実施。 夜間開館・土曜開館は行いません。	理学研究科情報資料室（仮称）が閲覧・文献複写業務を実施予定。 相互利用は本館で受付します。
基礎工学部図書室	閲覧・貸出・文献複写・相互利用業務を実施。	図書室は本館に完全に統合。 全サービスを本館で行います。

・図書館の階数の呼び方を変更

本館の階数は、これまで事務室のある一番下のフロアを地階、玄関とメインカウンターのあるフロアを1階と呼んできましたが、4月より新館の呼称に合わせて、それぞれ1階、2階と呼ぶこととなります。12年度の利用案内から、新しい階数を使うこととなりますが、それ以前の資料を参照される場合はご注意ください。

複写取寄せ・現物借受サービスの改善について

学外からの複写取寄せ及び現物借受については、一部サービスを拡大し、既に実施開始したのも含めて、平成12年度は次のように改善されます。（詳細は3階・参考カウンターでお尋ね下さい。）

- ・国内他大学等からの現物借受 … 私費に加えて、校費での支払も可能です。（実施中）
- ・BLDSC（英国図書館原報提供センター）からの複写取寄せ … 私費でも申し込めます。（実施中）
- ・BLDSC以外の海外大学等からの複写取寄せ … 図書館から依頼先に直接申し込みをします。

平成 11 年度大学図書館職員講習会開催

去る 11 月 9 日 (火) から 12 日 (金) まで、文部省との共催で、平成 11 年度大学図書館職員講習会が、歯学部記念会館において行われました。

受講対象者は、主として西地区の国公私立大学の図書館職員で、本学職員 3 名を含む参加者 81 名は、学内外からの講師による、大学図書館の組織運営から電子図書館まで広範囲にわたる各テーマ毎の講義を熱心に受講していました。

■■■■■ 教官著作寄贈図書 (1999/Oct.-2000/Jan.) ■■■■■

本 館	
江川 温 (文学部、教授)	西洋世界の歴史 / 近藤和彦編 東京：山川出版社, 1999
宮地 裕 (名誉教授)	敬語・慣用句表現論 / 宮地裕著 東京：明治書院, 1999 (現代語の文法と表現の研究 2)
真嶋 哲朗 (産業科学研究所、教授)	フリーラジカル / 手老省三, 真嶋哲朗著 市川：米田出版, 1999
大阪大学化学教育研究会	基礎化学実験法 / 大阪大学化学教育研究会編 東京：学術図書出版社, 1992 (9刷:1999)
永田 靖 (文学部、助教授)	山本修二の書齋 / 「山本修二の書齋」編集メンバー編集 東大阪：日本演劇学会関西支部, 1999
小川 一夫 (社会経済研究所、教授)	資産市場と景気変動：現代日本経済の実証分析 / 小川一夫, 北坂真一著 東京：日本経済新聞社, 1998
文学部日本史研究室	難波家(平野屋)史料目録 / 大阪大学文学部日本史研究室編 大阪：和泉書院, 1998
斎藤 衛 (名誉教授)	シェイクスピアと聖なる次元：材源からのアプローチ / 斎藤衛著 東京：北星堂書店, 1999
生 命 科 学 分 館	
野島 博 (微生物病研究所、教授)	遺伝子工学キーワードブック：わかる、新しいキーワード辞典 / 緒方宣邦, 野島博著 改訂第 2 版 東京：羊土社, 2000 (微研図書室にも寄贈)
森本 俊文 (歯学部、教授)	Neurobiology of Mastication - from Molecular to Systems Approach / editors Yoshio Nakamura, Barry J. Sessle Amsterdam : Elsevier, 1999 (International congress series ; no.1186)

■■■■■ お知らせ ■■■■■

○平成 11 年度人文科学系特別図書、高額参考

図書の購入について

10 月 27 日に開催された豊中地区図書選定小委員会において、以下の資料の購入が決定しました。

人文科学系特別図書

1. 古活字版聚芳
古活字版 50 様種の零葉集。(和装本)
2. 発展途上国教育文書集
(Documents on Education Development)

発展途上国の教育関係省庁、教育政策、教育行政に関する文書の集成。(マイクロフィッシュ)

高額参考図書

1. International Bibliography of Social Sciences: Anthropology
社会科学分野の精選文献目録。
2. 職務解説
昭和 23-29 年に発行された、労働省職業安定局による初の詳細な職務状況解説書。
3. Encyclopedia of Computational Chemistry
計算化学の全局面を網羅的に扱った百科事典。
4. The Porphyrin Handbook
ポルフィリンに関する最新の総合ハンドブック。
5. Encyclopedia of Mathematics on CD-ROM
数学分野における権威あるレファレンスの CD-ROM 版。
6. Encyclopedia of Spectroscopy and Spectrometry
分光学の基本原理から最先端の応用技術までを解説した百科事典。
7. Handbook of Nanostructured Materials and Nanotechnology
ナノ構造材料、ナノ技術のすべてをカバーする初の参考図書。
8. 辞海 (1999 年版)
『辞海』の 10 年ぶりの修訂版。
9. Regional Surveys of the World
世界の各地域の概説とデータを収録した年鑑の最新版。
10. 明治・大正・昭和前期雑誌記事索引集成
国会図書館の雑誌記事索引開始以前の明治初年～昭和 23 年までの雑誌記事索引を集大成したもの。

■■■■ 会 議 ■■■■

分館長会議

9. 13 (月) 10:05~11:50

当面の諸問題として、次の事項について意見交換を行った。

1. 本館増築関連
2. 研究開発の増進
3. サイバーメディアセンターとの連携
4. 全学共通教育機構「情報リテラシー教育」(仮)の検討
5. 図書資料購入費等
6. 独立行政法人化への対応

研究開発室会議

9. 17 (金) 15:00~16:00

当面の諸問題として、次の事項について意見交換を行った。

1. サイバーメディアセンターの平成 12 年度概算要求の進捗状況
2. 大阪大学創立 70 周年記念事業の一環として進められている懐徳堂及び適塾資料のデジタル化計画についての意見交換等

分館長会議

11. 8 (月) 10:05~11:45

当面の諸問題として、次の事項について意見交換を行った。

1. 大阪大学創立 70 周年事業
2. 韓国全南大学図書館との交流

分館長会議

12. 13 (月) 9:30~11:40

当面の諸問題として、次の事項について意見交換を行った。

1. 独立行政法人化への対応について
2. 本館増築関連について

研究開発室会議

12. 14 (火) 10:00~12:10

当面の諸問題として、次の事項について意見交換を行った。

1. 懐徳堂・適塾資料のデジタル化
2. 研究開発課題「海外衛星放送コンテンツの学内LAN伝送システム」
3. コンピュータのリプレイスについての仕様策定委員会の報告
4. 学内の学位論文の電子化状況調査結果報告
5. サイバーメディアセンターによる電子図書館化と、研究開発室及び電子図書館システム専門委員会との今後の関係
6. ユニバーシティ・ミュージアム構想

■■■■■ 日 誌 ■■■■■

H11. 9. 13	分館長会議	(本館)
9. 9~10	第17回大学図書館研究集会	(大阪市立大学)
9. 17	第4回研究開発室会議	(本館)
10. 8	情報資源共用・保存特別委員会WG	(東京工業大学)
10. 13	第32回国立七大学附属図書館部課長会議	(大阪ガーデンパレス)
10. 14	第73次国立七大学附属図書館協議会	(大阪ガーデンパレス)
10. 20~21	図書館情報サービスにおける国際協力活動に関するワークショップ	(学術情報センター)
10. 21	図書館電子化近畿地区WG	(京都大学)
11. 5	近畿地区医学図書館協議会例会	(天理よろず相談所)
11. 8	分館長会議	(本館)
11. 9~12	平成11年度大学図書館職員講習会	(歯学部記念会館)
11. 12	平成11年度大学図書館に対するヒアリング	(京都大学)
11. 17~18	第12回国立大学図書館協議会シンポジウム	(岡山大学)
11. 24	国立大学図書館協議会と学術情報センターとの業務連絡会	(東京大学)
11. 25	近畿地区医学図書館協議会第5回シンポジウム	(大阪市立大学)
11. 25	著作権特別委員会	(名古屋大学)
11. 25	国立大学図書館協議会常務理事会	(名古屋大学)
11. 26	国立大学図書館協議会理事会	(名古屋大学)
12. 13	分館長会議	(本館)
12. 14	第5回研究開発室会議	(本館)
12. 16	情報資源共用・保存特別委員会WG	(東京工業大学)